

平成 28 年度

修士課程 鍼灸学専攻

授 業 概 要

明治国際医療大学大学院

平成 28 年度 大学院 修士課程 鍼灸学専攻 教育課程

(鍼灸学研究科鍼灸学専攻 修士課程)									
科目区分	授 業 科 目	配当年次	単位数	時間数	伝統鍼灸学	鍼灸基礎医学	鍼灸臨床医学	ヘルスサイエンス鍼灸学	備 考
					必修	必修	必修	必修	
基盤科目	統合医療学特論Ⅰ	1	2	30	2	2	2	2	修了に必要な単位は、必修科目 24 単位と専門科目の研究法 2 単位以上、演習 4 単位以上を選択し、合計 30 単位以上とする。
	統合医療学特論Ⅱ	1	2	30	2	2	2	2	
	最新鍼灸医学特論	1	1	15	1	1	1	1	
	学際領域鍼灸医学特論	1	1	15	1	1	1	1	
	基礎鍼灸医学特論	1	4	60	4	4	4	4	
	臨床鍼灸医学特論	1	4	60	4	4	4	4	
専門科目	実験研究法	1	2	30	2	2	2	2	
	伝統鍼灸学研究法	1	2	30	2				
	鍼灸基礎医学研究法	1	2	30		2			
	鍼灸臨床医学研究法	1	2	30			2		
	ヘルスサイエンス鍼灸学研究法	1	2	30				2	
	伝統鍼灸学演習	1・2	4	120	4				
	鍼灸基礎医学演習	1・2	4	120		4			
	鍼灸臨床医学演習	1・2	4	120			4		
	ヘルスサイエンス鍼灸学演習	1・2	4	120				4	
特別研究	1~2	8	240	8	8	8	8		
合 計			-	-	30	30	30	30	

授 業 科 目 名	統合医療学特論 I					
授 業 科 目 名	統合医療学特論 I					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者	◎ 鶴 浩幸、今西二郎、江川雅人、廣正基、和辻 直、山崎 翼、 福田晋平					
テ ー マ	統合医療の概念、日本および世界における統合医療の現状を理解し、日本における統合医療のあり方及び統合医療における伝統医療の役割について考える。					
授 業 の 概 要	医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。 ①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。					
視 点 (ね ら い)	1. 統合医療の概念について理解すること 2. 西洋医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAM の特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要] オリエンテーション・ガイダンス [到達目標] 統合医療学特論 1 の授業内容や授業の進め方について理解する。					
	[授業概要] 統合医療概論 [到達目標] 1) 統合医療の概念やそのシステム、様々な代替医療の概念などについて理解する。					
	[授業概要] 附属統合医療センター実習・1 [到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。					

	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・2</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・3</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・4</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 循環器疾患と統合医療</p> <p>[到達目標] 1) 循環器疾患に対する統合医療の概要について理解する。</p> <p>2) 循環器疾患に対する統合医療の長所や注意事項などについて議論する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・5</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 冷え症と統合医療</p> <p>[到達目標] 1) 冷え症に対する統合医療の概要について理解する。</p> <p>2) 冷え症に対する統合医療の長所や注意事項などについて議論する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・6</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	

	<p>[授業概要] 疲労と統合医療</p> <p>[到達目標] 1) 慢性疲労症候群など疲労改善に対する統合医療の概要について理解する。</p> <p>2) 疲労改善における統合医療の長所や注意事項などについて議論する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・7</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] パーキンソン病と統合医療</p> <p>[到達目標] 1) パーキンソン病に対する統合医療の概要について理解する。</p> <p>2) パーキンソン病に対する統合医療の長所や注意事項などについて議論する。</p>	
	<p>[授業概要] 附属統合医療センター実習・8</p> <p>[到達目標] 附属統合医療センターにおける実習を行い、医師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・看護師・受付らがチーム医療を実施している現場を体験する。</p>	
	<p>[授業概要] 発表と討論・7</p> <p>[到達目標] ・統合医療領域における各治療法（アロマセラピー・ハーブ療法・漢方・ヨガ・サプリメント・カウンセリングや心理療法・禅・瞑想・その他）から1つのテーマを選択し、その治療法の内容や概要、実際の治療方法などについて学生自らが調べ、発表する。各種治療法の内容、長所や短所、注意事項などについての理解を深めるため、議論する。</p>	
	<p>[授業概要] まとめ</p> <p>[到達目標] ・全体の総括を行う。統合医療についての意見交換を行う。</p>	
テキスト（配付資料）	<p>配布資料及び</p> <p>今西二郎：統合医療, 金芳堂, 2008.</p>	
参 考 文 献	<p>1. 入門漢方医学, 日本東洋医学会学術教育委員会編集, 南江堂, 2002.</p> <p>2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編, 日本統合医療学会, 2007.</p> <p>3. 今西二郎：メディカル・アロマセラピー第2版, 金芳堂, 2010.</p> <p>4. 今西二郎：医療従事者のための補完代替医療第2版, 金芳堂, 2009.</p>	

評価方法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢（発言など）などによって総合的に評価する（60点以上を合格とする）。
その他（アドバイス等）	日本統合医療学会誌を参考とする。

授 業 科 目 名	統合医療学特論Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	渡邊勝之					
テ ー マ	生活者（患者）一人ひとりの自覚である“いのち主人公、からだの責任者”を基盤とした、統合医療を実践していくための問題点および課題を捉え、問題解決していくための具体案およびチーム医療を実践していくための方向性について考える。					
授 業 の 概 要	医学・医療を時間（歴史）的および空間（世界）的に大きく捉え、理想とする統合医療を実践していくための基本的な知識を習得する。また、日本における医療の現状を踏まえ、どのように実践すれば統合医療・チーム医療が実現可能かを考える。					
視 点（ねらい）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療理論および医療従事者の立場を明確にし、理解すること。 2. 医師・看護師・鍼灸師らの共通基盤について理解すること。 3. チーム医療を実践していくための問題点と課題を理解すること。 4. 生活者（患者）が主人公である医療について考えること。 					
授 業 計 画						
日程	概 要		備考（授業時間外学習の指示等）		テキスト 頁	
	[授業概要] 総論1（序章）		医療原論 序 章		p. 1	
	[到達目標] 医療原論と統合医療の関係を理解する				～4	
	[授業概要] 総論2		医療原論 第 1 章		p. 5	
	[到達目標] 《いのち》および医学・医療を通時的・共時的に捉える				～10	
	[授業概要] PHC・統合医療・始原医学とは		医療原論 第 2 章		p. 11	
	[到達目標] 上記の医学・医療の関係を理解する				～20	
	[授業概要] 医学・医療の歴史（総論）		医療原論 第 4 章		p. 29	
	[到達目標] 大きな医学の歴史的流れを理解する				～36	
	[授業概要] 西洋における医学・医療の歴史1		医療原論 第 5 章		p. 37	
	[到達目標] 医学の起源からルネッサンスを経て、近代までの歴史的変遷を理解する				～47	
	[授業概要] 西洋における医学・医療の歴史		医療原論 第 5 章		p. 48	
	[到達目標] ルネッサンス以降の医学から現代までを理解する。				～52	
	[授業概要] インドにおける医学医療の歴史と現状		医療原論 第 6 章		p. 53	
	[到達目標] 世界三大伝統医学の共通点を理解する				～58	

	[授業概要] 中国における医学医療の歴史と現状	医療原論 第7章	p. 59 ~67
	[到達目標] 鍼灸医学の起源~現代までを理解する		
	[授業概要] 日本における医学医療の歴史と現状	医療原論 第8章	p. 69 ~92
	[到達目標] 歴史と現状を理解し、未来を考える。		
	[授業概要] 《いのち》の哲学1	医療原論 第9章	p. 93
	[到達目標] 共通基盤となりうる医学の哲学とは		- 105
	[授業概要] 《いのち》の哲学2	医療原論 第9章	p. 105
	[到達目標] 様々な自然観・生命観・健康観・疾病観を理解する。		- 115
	[授業概要] 《いのち》の哲学3	医療原論 第9章	p. 115
	[到達目標] 身体観および気と自然治癒力について考える		- 126
	[授業概要] 《いのち》の哲学4	医療原論 第9章	p. 126
	[到達目標] 《CORE》Medicineを理解する		- 136
	[授業概要] まとめ	医療原論 第9章	p. 137
	[到達目標] 鍼灸医学の統合について考える		- 174
	[授業概要]	医療原論・参考文献 1~5	
	[到達目標] レポート課題1・2について考える		
テキスト（配布資料）	医療原論 —いのち・自然治癒力— 医歯薬出版社, 東京, 2011. ※自主購入とする		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 『統合医療 基礎と臨床』【臨床編】日本統合医療学会編集, 2007. 世界伝統医学大全, WHO 責任編集, 津谷喜一郎訳, 平凡社, 1995. 医学概論, 澤瀉久敬, 誠信書房, 2000. 看護覚え書, フロレンス・ナイチンゲール, 現代社, 2000. ホリスティック医学, 日本ホリスティック医学協会, 東京堂出版. 		
評 価 方 法	レポート提出および発表で、総合的に評価を行う。		
その他（アドバイス等）	日本統合医療学会誌を参考。なお、レポートの書き方については、学習技術研究会/編著『知へのステップ』第3版を参考にして下さい。		

授 業 科 目 名	最新鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 角谷英治、川喜田健司、中山登稔、岡田 薫、新原寿志、谷口博志					
テ ー マ	最新の基礎研究におけるトピックス、特に鍼灸医学と関連するテーマを取りあげ、基礎医学研究の成果とその意義について考える。					
授 業 の 概 要	<p>(概要) 現代医学における基礎研究の最新のトピックスを取りあげ、どのような研究が注目され、研究対象とされているかについて医学情報を紹介し、最新の基礎医学研究の成果とその解釈(考察)について教授する。</p> <p>(川喜田健司/1 回) 痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。(トリガーポイントの発現機序を含む)</p> <p>(岡田 薫/1 回) 痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。</p> <p>(角谷英治/2 回) 鍼灸刺激と鎮痛系に関する概要と最新の知見として、鍼・灸刺激の鎮痛効果とその作用機序などについて教授する。</p> <p>(中山登稔/1 回) 中枢神経機能に関する最新の知見として、高次神経機能、特に脳研究とその成果などについて教授する。</p> <p>(新原寿志/2 回) 鍼灸刺激と自律神経反応に関する最新の知見として、特に鍼刺激と筋血流、神経機能などについて教授する。</p> <p>(谷口博志/1 回) 自律神経反応に関する最新の知見として、特に体表自律神経反射について教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 痛みと鎮痛に関する最新の知見について理解すること 2. 体性自律神経反射の最新の知見について理解すること 3. 最新の基礎医学研究の進歩について考えること 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(川喜田1)] トリガーポイントの成因と鎮痛機序			関連論文および資料の読解		
	[到達目標(川喜田1)] トリガーポイントの成因と内因性鎮痛系への関与を理解させる。					
	[授業概要(岡田1)] 痛みのメカニズムと内因性鎮痛系			関連論文および資料の読解		
	[到達目標(岡田1)] 痛みの発生と内因性鎮痛系について理解する。					

	[授業概要(角谷1)] 鍼鎮痛の概要	鍼灸刺激の特性と内因性鎮痛について予習する。
	[到達目標(角谷1)] 鍼鎮痛の概要について理解できる。	
	[授業概要(角谷2)] 上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛	上行性痛覚抑制系と末梢性鎮痛に関する論文を読み、簡単にまとめる。
	[到達目標(角谷2)] 鍼鎮痛における上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛の関与の可能性について理解できる。	
	[授業概要(中山1)] 近年の非侵襲的脳神経活動の研究手法が飛躍的に進歩しているが、本講義においては非侵襲的脳研究手法を紹介し、それらの手法を用いた鍼研究の成果について解説する。	脳神経、脊髄神経と末梢神経の構成・構造を予習すること。
	[到達目標(中山1)] 非侵襲的脳研究手法への認識と鍼刺激における脳神経活動への影響を理解する。	
	[授業概要(新原1)] 鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムについて	鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムに関する論文を読み、簡潔にまとめる。
	[到達目標(新原1)] 鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムに関する最新の知見について理解する。	
	[授業概要(新原2)] 鍼灸刺激による神経循環改善のメカニズムについて	鍼灸刺激による神経循環改善のメカニズムに関する論文を読み、簡潔にまとめる。
	[到達目標(新原2)] 鍼灸刺激による神経循環改善のメカニズムに関する最新の知見について理解する。	
	[授業概要(谷口1)] 鍼灸治療は古くから内臓の機能異常に対して有効であるとされており、それは自律神経を介して生じることが報告されている。本講義では自律神経機能を指標とした鍼灸の基礎研究を紹介し、現在解明されている機序について解説する。	自立神経の形態および生理機能を予習すること。 体性-体性神経反射、体性-自律神経反射、内臓-自律神経反射、内臓-体性神経反射をそれぞれ予習すること。
	[到達目標(谷口1)] 鍼灸刺激によって生じる体性-自律神経反射を理解し、内臓諸器官に対する鍼灸治療の治効機序を説明することができる。	
テキスト(配付資料)	参考文献を参照	
参考文献	1. トリガーポイント鍼療法, 川喜田健司監訳, 医道の日本社, 1995 2. 痛みのメカニズム, 横田敏勝, 南江堂, 1997 3. 鍼灸臨床の科学 4. 体性-自律神経反射の生理学, 佐藤昭夫/佐藤優子/R.F.シュミット 山口眞二郎, シュブリンカー・ジャパン, 2007	
評価方法	課題に対するレポートにより評価する。	
その他(アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。	

授 業 科 目 名	学際領域鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎梅田雅宏、渡邊勝之、山崎 翼					
テ ー マ	医療と情報、医療と社会、健康の病気などの各分野における中心的内容を取り上げ、学際的な観点から鍼灸医学をとらえなおす。					
授 業 の 概 要	<p>①医療と情報、②医療と社会、③予防と未病、④健康と病気の各分野における中心的内容を取り上げ、それらと鍼灸医学との関連性について教授する。</p> <p>(梅田雅宏/2 回) 医療情報に関する最新の知見として、医療情報とは何か、医療情報の意義と価値などについて教授する。</p> <p>(渡邊勝之/2 回) 医療と社会との関連性として、医療社会学とは何か、医療社会学における伝統医学の役割などについて教授する。</p> <p>(山崎 翼/2 回) 健康論の変遷などについて、健康と病気との関係性を通して健康とは何か、健康と伝統医学との関係を教授する。</p> <p>(山崎 翼/2 回) 予防医学、未病医学の概要として、貝原益軒の『養生訓』にみる養生の意義や未病医学の意義などについて教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報とは何か、その意義と価値について理解すること。 2. 医療社会学という学問について理解すること。 3. 養生の意義と未病医学の意義と視点について理解すること 4. 健康と病気及び健康論について理解すること 5. 鍼灸医学における学際的な視点の必要性について考えること 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	<p>[授業概要(梅田1)] 医療に関連する情報の創出とそのデータの扱い方、利用の仕方を考え、現在の医療データ管理の現状を学習する。また、IT化の進化としてネットワークシステムについて解説し、その医療への応用を解説し、医療とコンピュータの関わりについて理解を深める。</p>					
	<p>[到達目標(梅田 1)] 医療行為に伴う情報の種類や内容を理解し、医療情報の収集、整理、利用法を考え、ネットワークシステムを生かした医療情報システムが運用されようとしていることを理解する。</p>					

	<p>[授業概要(梅田2)] 病院における医療情報の種類と流れを把握し、現在の病院システムを解説する。さらに検査データについての種類とその種別について解説する。また電子カルテなどにおけるメリットとデメリットについて解説する。</p>	
	<p>[到達目標(梅田 2)] 医療行為に伴う情報の性質について理解し、その扱い方やコンピュータを利用した情報の流れを理解する。</p>	
	<p>[授業概要(渡邊1)] 医学原論(医学とは、医療とは)</p>	<p>医療原論 第3章他 (統合医療学特論Ⅱのテキスト)</p>
	<p>[到達目標(渡邊 1)] 医学・医療とは何かを考える。</p>	
	<p>[授業概要(渡邊2)] ケアの科学、一人称の科学、健康生成論</p>	<p>医療原論 第3章他 (統合医療学特論Ⅱのテキスト)</p>
	<p>[到達目標(渡邊 2)] 医療と社会について考える。</p>	
	<p>[授業概要(山崎1)] 「健康」という用語の誕生と「健康」という概念について学習するとともに東洋医学の健康観について学習する。とくに明治期に健康に対する概念の変化について理解する。</p>	<p>参考文献 4、5</p>
	<p>[到達目標(山崎 1)] 「健康」という用語の誕生とその概念の変化について理解する。</p>	
	<p>[授業概要(山崎2)] 「健康」に対する捉え方と多様な健康観について学習し、健康という概念の多義性と各々の健康観の特徴を理解する。そのことを通して、健康についての自己の視点を涵養する。</p>	<p>参考文献 4、5</p>
	<p>[到達目標(山崎 2)] 「健康」の多様な捉え方と各健康観の特徴を理解する。</p>	
	<p>[授業概要(山崎3)] 貝原益軒とは、養生訓の重要な考え方について概説する。</p>	
	<p>[到達目標(山崎 3)] 養生訓の総論について理解する。</p>	
	<p>[授業概要(山崎4)] 養生訓の具体的な養生法(飲食、鎮病、折医、用薬、養老、鍼灸)の主な内容について紹介する。</p>	
	<p>[到達目標(山崎 4)] 養生訓の各論について理解する。</p>	

テキスト（配付資料）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報 医学・医療編 新版, 日本医療情報学会医療情報技師育成部会, 2009. 2. 医療社会学を学ぶ人のために, 進藤雄三, 黒田浩一郎, 世界思想社, 1999. 3. 養生・未病に関する配布資料 4. 医療原論 —いのち・自然治癒力— 医歯薬出版社, 東京, 2011.
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報学入門, 樺澤 一之, 豊田 修一, 共立出版, 2006. 2. 医療社会学を学ぶ人ために, 進藤雄三, 黒田浩一郎編, 世界思想社, 2001. 3. わかりやすい医療社会学, 野村拓, 藤崎和彦, 看護の科学者, 1997. 4. 「健康」の日本史, 北澤一利, 平凡社新書 5. 健康観の転換-新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子編, 東京大出版会
評 価 方 法	課題に対するレポートおよびプレゼンテーションにより評価する。
その他（アドバイス等）	随時、適当な文献を紹介する。

授 業 科 目 名	基礎鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者 (○は領域責任者、 ◎は科目責任者)	鳴瀬善久、廣瀬英司 川喜田健司、林 知也 糸井マナミ、千葉章太 ◎ 和辻 直、角谷英治、新原寿志、斉藤宗則					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、鍼灸医学と関連が深いと考えられる基礎医学的分野および鍼灸医学の伝統的基礎理論分野の各領域における最新の知見について学習し、基礎鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸医学に関連する形態学(特に鍼灸臨床と関係の深い体表解剖及び皮膚の形態)、機能学(特に鍼灸刺激で生じるさまざまな生体现象を理解する基礎となる生体の調節機構)、免疫学(特に免疫系・生体防御系)について教授する。また、鍼灸医学の根底を成す古医書及び鍼灸医学の基礎理論となる経絡経穴学・診察法(四診法)等についてより専門的に教授する。					
	【形態学領域】 (廣瀬英司/4 回) 研究法の特性によってどのような神経系の形態的特徴が明らかにできるか実例を講義する。また、筋(平滑筋、骨格筋、心筋)の分化・成熟に関わる遺伝子とタンパク質について教授する。 (鳴瀬善久/4 回) 分子生物学の現代医学分野における研究の現状と鍼灸医学分野への応用の可能性について教授する。					
	【機能学領域】 (川喜田健司/4 回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。動物機能において特に体性神経系機能などを教授する。 (林 知也/4 回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。植物機能において、特に循環・消化・代謝などについて教授する。					
	【免疫学領域】 (千葉章太/4 回) 生体の維持・生体防御と炎症の分子基盤を教授する。 (糸井マナミ/4 回) 免疫系の器官形成と制御・血管・リンパ管・血管系を介する細胞移動、細胞へのシグナル伝達についての分子基盤を教授する。					
	【基礎鍼灸学領域】 (斉藤宗則/2 回) 東洋医学的な基本的な整体(生体)観と疾病の関わり、疾病について理解するとともに、根幹を成す臓腑・経絡との関連について教授する。					

	<p>(角谷英治/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、現代西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として現代西洋医学の観点でとらえた経絡、ツボについて教授する。</p> <p>(新原寿志/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、現代西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として鍼灸の安全性について教授する。</p> <p>(和辻直/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、現代西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として東洋医学の診察法、特に舌診について教授する。</p>	
視 点 (ね ら い)	<p>【形態学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的に応じた神経系の方法論を理解すること 2. 先端的研究に欠かせない分子生物学の現状とその鍼灸医学分野への応用の可能性について理解すること 3. 鍼灸領域で重要な治療対象となる筋の発生機序について分子生物学的立場から理解する。 <p>【機能学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表刺激と体性神経機能との関係について理解すること 2. 体表刺激と消化・代謝機能との関係について理解すること 3. 体表刺激と循環・生体調節機能との関係について考えること <p>【免疫学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の基本構成・血液系細胞・循環系について理解すること 2. 生体防御系・炎症・アレルギーについて理解すること 3. 生体防御系の調節系について考えること <p>【基礎鍼灸学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の基本的な整体観、病因、臓腑や経脈について理解すること 2. 経脈理論について理解すること 3. 形態学的、機能学的にみた経絡、ツボについて理解すること 4. 鍼灸臨床における安全性について理解すること 5. 舌診の診断的有効性について理解すること 	
授 業 計 画		
日程	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)
	[授業概要(廣瀬1)] 神経系の形態学的基礎	
	[到達目標(廣瀬1)] 目的に応じた研究方法選択の理解	
	[授業概要(廣瀬2)] 神経系の形態学的基礎	
	[到達目標(廣瀬2)] 目的に応じた研究方法選択の理解	

	[授業概要(廣瀬 3)] 筋の分化・成熟に関わる遺伝子の役割	
	[到達目標(廣瀬 3)] 筋の分化に関わる遺伝子の役割の理解	
	[授業概要(廣瀬 4)] 筋の分化・成熟に関わる遺伝子の役割	
	[到達目標(廣瀬4)] 筋の分化に関わる遺伝子の役割の理解	
	[授業概要(鳴瀬 1)] 分子生物学の鍼灸医学への応用	
	[到達目標(鳴瀬1)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
	[授業概要(鳴瀬 2)] 分子生物学の鍼灸医学への応用	
	[到達目標(鳴瀬 2)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
	[授業概要(鳴瀬 3)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
	[到達目標(鳴瀬 3)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
	[授業概要(鳴瀬 4)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
	[到達目標(鳴瀬 4)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
	[授業概要(川喜田 1)] 体表刺激で興奮する体性感覚受容器	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田1)] 各種受容器の特徴を理解させる。	
	[授業概要(川喜田 2)] ポリモーダル受容器の構造と機能	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田2)] ポリモーダル受容器の持つ役割について理解させる。	
	[授業概要(川喜田 3)] 体性感覚刺激でおこる筋緊張緩和作用	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田3)] 筋緊張の調節機構を理解させる。	
	[授業概要(川喜田 4)] 体性感覚刺激でおこる鎮痛作用	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田4)] 内因性鎮痛機構を理解させる。	

	[授業概要(林 1)] 消化・吸収機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林1)] 消化・吸収機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
	[授業概要(林 2)] 代謝機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林2)] 代謝機能の内、特にエネルギー代謝機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
	[授業概要(林 3)] 循環機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林3)] 循環機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
	[授業概要(林 4)] ストレスに対する生体調節機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林4)] ストレスに対する生体調節機能の内、特に内分泌機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
	[授業概要(千葉 1)] 生体を構成する分子の特徴	
	[到達目標(千葉1)] 生体構成分子の特徴を理解する。	
	[授業概要(千葉 2)] 幹細胞：再生と修復	
	[到達目標(千葉2)] 幹細胞の特性・創傷治癒について理解する。	
	[授業概要(糸井 1)] 生体防御反応	
	[到達目標(糸井1)] 自然免疫と獲得免疫を理解する。	
	[授業概要(糸井 2)] 炎症とアレルギー	
	[到達目標(糸井2)] 生体内危険分子・外来抗原への反応を理解する。	
	[授業概要(糸井 3)] 免疫寛容と自己免疫疾患	
	[到達目標(糸井3)] 自己寛容の形成と自己免疫疾患の発症機序を理解する。	
	[授業概要(糸井 4)] 免疫系器官の形成と機能	
	[到達目標(糸井4)] 免疫系器官の形成とその機能について理解する。	

	[授業概要(千葉 3)] 細胞の接着と移動の制御	
	[到達目標(千葉 3)] 免疫系細胞の局所への移動について理解する。	
	[授業概要(千葉 4)] 細胞内シグナルの制御	
	[到達目標(千葉 4)] 免疫細胞における細胞内シグナル制御－受容体刺激から転写調節へを理解する	
	[授業概要(斉藤 1)] 東洋医学の古典検索方法を学ぶ。	インターネットや図書館において、実際に古典文献の検索を行う
	[到達目標(斉藤 1)] 古典検索の方法を説明できる。	
	[授業概要(斉藤 2)] 東洋医学の古典の基礎的な読み方を学ぶ。	『黄帝内経』(『素問』上古天真論篇 01 など)を読む
	[到達目標(斉藤 2)] 古典の基礎的な読み方を説明できる。	
	[授業概要(角谷 1)] 形態学的、機能的にみた経絡について	体性刺激の伝導路とその特徴について見直して復習しておく。
	[到達目標(角谷1)] 経絡を基礎医学的に捉えて理解することができる。	
	[授業概要(角谷 2)] 形態学的、機能的にみたツボについて	体性刺激の伝導路とその特徴について見直して復習しておく。
	[到達目標(角谷2)] 診察点であり治療点であるツボを基礎医学的に捉えて理解することができる。	
	[授業概要(新原 1)] 鍼灸臨床における感染防止対策について	鍼灸医療ガイドラインの感染防止対策について簡潔にまとめる。
	[到達目標(新原1)] 現状の鍼灸臨床における感染防止対策について理解する。	
	[授業概要(新原 2)] 鍼灸臨床における副作用・医療過誤・事故の現状について	鍼灸医療ガイドラインの感染防止対策について簡潔にまとめる。
	[到達目標(新原2)] 鍼灸臨床における副作用・医療過誤・事故の現状について理解する。	

	<p>[授業概要(和辻 1)] 東洋医学の診察法、舌診の特徴・基本的診察法について学習する。</p> <p>[到達目標(和辻1)] 東洋医学の診察法の概要、舌診の特徴や基本的診察法、正常な舌所見などが説明できる。</p>	「新しい鍼灸診療」(p. 26～29)を読み理解を深める。
	<p>[授業概要(和辻 2)] 舌診の基本的診察法・臨床応用について学習する。</p> <p>[到達目標(和辻2)] 舌診の基本的診察項目が説明できる。また舌診所見と病証との関係や予後判断が理解できる。</p>	「新しい鍼灸診療」(p. 29～39)を読み理解を深める。
テキスト(配布資料)	<p>免疫学領域</p> <p>Essential 細胞生物学 原書第3版 中村桂子・松原謙一 監訳、南江堂 シンプル免疫学(改訂第3版) 中島泉、高橋利忠、吉開泰信、南江堂 他にプリント配布</p> <p>基礎鍼灸学領域</p> <p>新しい鍼灸診療, 北出利勝編集, 医歯薬出版社, 2006</p> <p>形態学・機能学領域については適宜指示する。</p>	
参 考 文 献	<p>免疫学領域</p> <p>もっとよくわかる!免疫学 河本宏、羊土社 カラー図解・免疫、感染症と炎症性疾患における免疫応答 笹月健彦監訳、 メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>基礎鍼灸学領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経穴ポケットガイド 361 穴, 医歯薬出版, 篠原昭二 2. ビギナーズ鍼灸 HARI なび, ヒューマンワールド, 篠原昭二 3. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル, 尾崎昭弘著, 医歯薬出版, 2003 4. 鍼灸臨床の科学, 西條一止, 熊澤孝朗監修, 医歯薬出版, 2000 5. 東洋医学を学ぶ人のために, 高木健太郎他監修, 医学書院, 1984 6. 鍼灸医療安全ガイドライン, 尾崎昭弘・坂本歩他編, 医歯薬出版, 2006 	
評 価 方 法	<p>課題に対するレポートにより評価する。</p> <p>免疫学領域「鍼灸刺激が生体防御系調節に関与し得る作用とそのメカニズムについて」</p>	
その他(アドバイス等)	<p>領域毎に随時、適当な文献を紹介する。</p>	

授 業 科 目 名	臨床鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者 (○は領域責任者、 ◎は科目責任者)	◎ 石崎直人、苗村建慈、福田文彦、竹田太郎 ○ 井上基浩、糸井 恵、今枝美和 ○ 北小路博司、糸井啓純、山田 潤、樋口敏宏、伊藤和憲、 鶴 浩幸、田口玲奈 ○ 江川雅人、片山憲史、廣 正基、木村啓作、山崎 翼					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、現代西洋医学の各診療科および鍼灸臨床の専門分野において、最新の知見について学習し、臨床鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	現代西洋医学の各診療科の分野における鍼灸臨床の対象となる可能性 がある、あるいは有効なものを取り上げ、ガイドライン、診断法、治療 法及び評価法などについて、最新の現代医学及び鍼灸医学の臨床に関す る知見を教授する。また、鍼灸臨床の応用分野(スポーツ、予防・未病 医療、高齢者医療)における意義と役割について教授する。 【内科系領域】 (石崎直人／2回) 肥満及び糖尿病の基礎知識及び鍼灸治療に関する最 新の知見について教授する。 (石崎直人／1回) 消化器・代謝系疾患における診断と治療について、 最新の知見を教授する。 (苗村建慈／1回) 呼吸器系疾患における診断と治療について、最新の 知見を教授する。 (川人浩之 1回) 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知 見を教授する。 (福田文彦／1回) うつ状態(病)における予防及び治療及び鍼灸臨床の 可能性も含めた最新の知見について教授する。 (竹田太郎／1回) 冷え性(症)の病態及び予防・治療法について、また 鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 【整形外科系領域】 (糸井 恵／2回) 整形外科系疾患における診断と治療について、最新 の知見を教授する。 (井上基浩／2回) 腰痛の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び 鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (井上基浩／2回) 関節痛の病態に関する最新の知見と予防・治療法及 び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。					

	<p>(今枝美和／1回) 頸部痛の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>【外科系領域】</p> <p>(北小路博司／1回) 排尿障害の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(糸井啓純／1回) がん(特に消化器系)における診断と治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>(樋口敏宏／1回) 脳疾患(特に脳血管障害)における診断と治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>(納谷佳男／1回) 泌尿器科疾患(主として神経因性膀胱)における診断と治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>(山田 潤／1回) 全身の免疫系を基軸において、眼疾患を中心とした診断治療に関する最近の知見を教授する。</p> <p>(伊藤和憲／1回) 消化器症状(特に食欲不振)の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(伊藤和憲／1回) 慢性疼痛の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(鶴 浩幸／1回) 眼症状の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(田口玲奈／1回) 産婦人科(特に月経困難症)の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>【応用鍼灸系領域】</p> <p>(片山憲史／1回) スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(江川雅人／3回) 高齢者疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(山崎 翼／1回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に産業医学の観点から最近の知見を教授する。</p> <p>(廣 正基／1回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に血圧管理の観点から最近の知見を教授する。</p> <p>(木村啓作／1回) スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法について教授する。</p>
--	--

視 点 (ね ら い)	<p>【内科系領域】</p> <p>1. 内科系疾患及び症状(1部精神疾患を含む)において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【整形外科系領域】</p> <p>1. 整形外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【外科系領域】</p> <p>1. 外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【応用鍼灸系領域】</p> <p>1. スポーツ分野、予防・未病医学分野、高齢者医療分野における病態、予防・治療法及び鍼灸臨床の意義と役割について理解すること</p>
---------------	---

授 業 計 画		
日程	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)
	<p>[授業概要(石崎1)] 糖尿病の疫学と病態について概説した上で、糖代謝に及ぼす鍼刺激効果について研究結果を交えて説明し、鍼灸治療が糖尿病に貢献する可能性について教授する。</p> <p>[到達目標(石崎1)] 糖尿病の疫学と病態について理解した上で、鍼灸治療が糖尿病においてどのような役割を担うことができるかを説明できる。</p>	<p>糖尿病の病態生理については、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。鍼灸治療と糖尿病との関係については講義スライドで引用している学術雑誌等の内容を中心に補足勉強してください。</p>
	<p>[授業概要(石崎2)] 糖尿病の疫学と病態について概説した上で、糖代謝に及ぼす鍼刺激効果について研究結果を交えて説明し、鍼灸治療が糖尿病に貢献する可能性について教授する。</p> <p>[到達目標(石崎2)] 糖尿病の疫学と病態について理解した上で、鍼灸治療が糖尿病においてどのような役割を担うことができるかを説明できる。</p>	
	<p>[授業概要(石崎3)] 消化性潰瘍の成因について、ヘリコバクター・ピロリ菌の関与も含めて解説する。</p> <p>[到達目標(石崎3)] ヘリコバクター・ピロリ菌の特性も含めて消化性潰瘍へどのように関与しているか説明できる。</p>	<p>消化性潰瘍の成因の研究の歴史の流れを論文を検索してまとめる。</p>

[授業概要(苗村1)] 気管支喘息の診断と治療	[到達目標(苗村1)] 気管支喘息の、現代医学からみた、病因、症状、診断、治療について理解する。	呼吸器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
[授業概要(川人1)] 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。	[到達目標(川人1)] 循環器疾患の終末期像である心不全の疫学、病態および診断治療指針と予後について理解できる。	循環器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
[授業概要(福田1)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について解説する。	[到達目標(福田1)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について理解する。	うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握については、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
[授業概要(竹田1)] 冷え性(症)の東洋医学的基本概念を解説する。また、冷え性(症)に対する鍼灸臨床の最新の知見を解説する。	[到達目標(竹田1)] 冷え性(症)の病態について、主に東洋医学的に理解し、定量(評価)法についても理解する。最新の知見に基づく鍼灸治療法を理解し、臨床応用の可能性を考察できる。	末梢循環の基礎知識については、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。冷え性の病態や鍼灸治療については、自律神経雑誌や鍼灸学会雑誌等の情報も併せて参考にしてください。
[授業概要(井上1)] 腰下肢症状の理解と診察	[到達目標(井上1)] 腰下肢症状の出現過程と診察法を理解する。	椎間板の変性過程と病態の変遷について、学習する。
[授業概要(井上2)] 腰下肢症状に対する鍼灸治療	[到達目標(井上2)] 腰下肢症状に対する現代医学的な病態把握に基づく一般的鍼灸治療、特殊な鍼灸治療を理解する。	下肢末梢神経(特に坐骨神経と大腿神経)の走行を記憶する。坐骨神経血流と鍼・鍼通電刺激の関係を考察する。
[授業概要(糸井恵1)] 関節疾患(変形性関節症など)の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	[到達目標(糸井恵1)] 関節疾患の病態に関する最新の知見について理解する。	関節疾患の基礎知識については参考書を利用して適宜補ってください。
[授業概要(糸井恵2)] 腰椎疾患(椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など)の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	[到達目標(糸井恵2)] 腰椎疾患の病態に関する最新の知見について理解する。	教科書を読んで、腰椎疾患の西洋医学におけるガイドラインを理解する(診察法・診断法・治療法について)。

	<p>[授業概要(井上3)] 膝関節痛を発症する病態には様々な疾患が存在する。このことを理解する事は適切な鍼灸臨床を行う上でも、また鍼灸師としての適応と限界について考える点からも重要となる。ここでは、これらの膝関節痛を伴う疾患について教授する。</p>	<p>膝関節の解剖学的理解を深めておく。</p>
	<p>[到達目標(井上3)] 鍼灸師が日常臨床で理解すべき膝関節疾患(病態・症状・臨床所見・徒手検査など)について説明ができることを目的とする。また病態から鍼灸治療の適応と限界についても考えられるようにする。</p>	
	<p>[授業概要(井上4)] 様々な膝関節痛を発症する疾患に対し、適切な治療方針を考える事は鍼灸臨床では重要となる。そこで膝関節痛に対する予防・治療法を教授する。</p>	<p>膝関節痛を発症する疾患の理解を深めておく。</p>
	<p>[到達目標(井上4)] 鍼灸師として膝関節痛をどのような治療方針で考え、施術すべきかを理解できるようにする。特に鍼灸治療の方法はもとより現代医学的治療方法も理解し、鍼灸治療の新たな取りくみについても考察できるようにする。</p>	
	<p>[授業概要(今枝1)] 頸肩四肢症状の理解と診察、治療法、及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p>	<p>頸部の機能解剖について学習する。</p>
	<p>[到達目標(今枝1)] 頸肩四肢症状の出現過程と診察法を理解し、病態把握に基づく鍼灸治療法について考察する。</p>	
	<p>[授業概要(北小路1)] 排尿障害の病態に関する最新の鍼灸医療の知見について解説する。</p>	<p>過活動膀胱に関する鍼灸の論文を検索し、現時点の有効性と限界を理解する(治療方法と評価について)。</p>
	<p>[到達目標(北小路1)] 排尿障害の病態に関する最新の鍼灸医療の知見について理解する。</p>	
	<p>[授業概要(糸井啓1)] がん(特に消化器系)における診断と治療について、最新の知見を解説する。</p>	<p>胃がん治療ガイドライン(一般用)を読んで、現状の胃がん治療を理解する。胃がん治療ガイドラインを読んだ感想、内容で分かりやすい点、分かりにくい点をまとめる。胃がん治療ガイドラインは日本胃癌学会HPより、無償でダウンロードできる。 (http://www.jgca.jp/PDFfiles/GL2IPPAN.pdf)</p>
	<p>[到達目標(糸井啓1)] がんの診断と治療について理解する。がんの様々な治療法が、治療ガイドラインに基づいていることを学ぶ。ここでは胃がんを中心に教授する。</p>	
	<p>[授業概要(樋口1)] 脳血管障害について、出血性疾患と虚血性(閉塞性)疾患にわけて、最新の知見を含めて解説する。</p>	<p>脳血管障害の中でも、特にクモ膜下出血、脳出血、脳梗塞について、病態、疫学、診断、治療、予防に関する知識を蒐集し</p>

	[到達目標(樋口1)] 脳血管障害の病態、疫学、診断、治療、予防について理解する。	整理を行う。論文の検索、理解などによって、最新の知見を蒐集する。
	[授業概要(納谷1)] 泌尿器疾患（主として下部尿路症状）の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。 [到達目標(納谷1)] 泌尿器科疾患（主として下部尿路症状）の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる	講義スライドで出てくる用語については、参考資料を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。
	[授業概要(山田1)] 全身の免疫系を基軸において、眼疾患を中心とした診断治療に関する最近の知見を教授する。 [到達目標(山田1)] 局所における細胞から組織、そして全身の関わりを理解し、疾患予防や治療戦略について理解する。	授業に関連した資料についての復習を行う。
	[授業概要(谷口博1)] 鍼刺激による胃機能に対する作用と機所を学び、その臨床応用として消化器症状に対する鍼の効果を教授する。 [到達目標(谷口博1)] 鍼刺激による消化管機能に対する作用の一端と、その臨床応用を理解する。	関連文献（学術論文）による予習と復習をする。
	[授業概要(伊藤1)] 慢性疼痛に対する鍼灸治療について最新の知見を解説する。 [到達目標(伊藤1)] 慢性疼痛の病態や治療方法を解説すると共に、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識（病態把握や治療法）について理解する。	鍼灸理論の内容を復習しておいてください。
	[授業概要(鶴1)] 視覚器の主要な構造と働き、屈折異常（近視・遠視・乱視）と眼精疲労。視力向上や眼精疲労（疲れ目）の軽減に対する鍼治療 [到達目標(鶴1)] 眼の主要な構造を理解する。屈折異常や眼精疲労の主要な病態を理解する。視力向上や眼精疲労（疲れ目）の軽減に対する鍼治療の効果（およびその可能性）について理解する。	眼の解剖学的構造（外膜・中膜・内膜など）と機能を調べておく。
	[授業概要(田口1)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 [到達目標(田口1)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について理解する。	
	[授業概要(片山1)] スポーツ鍼灸について。1) スポーツ鍼灸の適応疾患、2) スポーツ現場での鍼灸活動、3) スポーツ鍼灸に関する研究、4) スポーツ鍼灸を実践する上での問題点など。	

	[到達目標(片山1)] スポーツ分野における予防・治療法及び鍼灸臨床(スポーツ鍼灸)の意義と役割について理解すること。	
	[授業概要(江川1)] 高齢者疾患としてパーキンソン病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。 [到達目標(江川1)] 高齢者の中枢性疾患(パーキンソン病)の病態、特徴的症狀、鑑別方法、評価、鍼灸治療法を理解できる。	
	[授業概要(江川2)] 高齢者疾患として認知症、高齢者うつ病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。 [到達目標(江川2)] 高齢者の中枢性疾患(認知症、高齢者うつ病)の病態、特徴的症狀、鑑別方法、評価、鍼灸治療法を理解できる。	
	[授業概要(江川3)] 1) 高齢者疾患の特徴、2) 老年医学的総合評価(CGA)について、3) 高齢者に対する鍼灸の臨床研究について講義する。 [到達目標(江川3)] 高齢者における疾患の特徴、特に老年症候群について理解し、高齢者の機能を包括的に評価するCGAの内容とその意義について理解する。また、高齢者に対する鍼灸の臨床研究の現状について理解する。	
	[授業概要(山崎1)] 労働者の健康状況や健康問題についてふれ、それに対する鍼灸治療の有用性について紹介する。 [到達目標(山崎1)] 労働者の健康管理を目的とした、産業領域における鍼灸治療の実際について知識をえる。	関連文献(学術論文)による予習と復習をする。
	[授業概要(廣1)] 未病医学における鍼灸臨床の応用、生活習慣病である高血圧症について血圧管理の観点から最近の知見を教授する。 [到達目標(廣1)] 日本の高血圧ガイドラインについて把握するとともに、高血圧に対する鍼灸臨床の現状および血圧管理への応用について理解する。	
	[授業概要(木村1)] (1) コンタクト及びノンコンタクトスポーツにおける傷害の予防・治療・競技復帰までのリハビリテーションについて。(2) スポーツにおける傷害予防およびパフォーマンス向上に関する最新の研究について。	

	[到達目標(木村1)] スポーツ分野における傷害の予防や治療方法(鍼灸治療の役割も含む)を理解する。	
テキスト(配付資料)	『図解 鍼灸療法技術ガイド1・2』矢野忠他編著 文光堂 2010 ※自主購入とする	
参 考 文 献	1. 内科学第7版: 杉本恒明ほか編, 朝倉書店, 2009 2. 新臨床内科学第9版: 高久史磨ほか編, 医学書院, 2009 3. 鍼灸学臨床編: 天津中医薬大学ほか編, 東洋学術出版社, 1993 4. 標準外科学: 北島政樹編集, 医学書院, 2010 5. 標準整形外科学: 中村利孝編集, 医学書院, 2008 6. 図解整形外科学診断ガイド: 露口雄一他著, 文光堂, 1996 7. 整形外科テスト法: 斉藤明議監訳. 医道の日本, 1995 8. 排尿障害のすべて: 渡邊決著 医薬ジャーナル社, 1998 9. よくわかる排尿トラブルの対処法: 三木恒治・中尾昌宏編, 昭和堂, 2008 10. 新耳鼻咽喉科学: 切替一郎著, 南山堂(株), 1998 11. 現代の眼科学(改訂第9版): 所 敬, 吉田晃敏編著, 金原出版, 2006	
評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。	
その他(アドバイス等)	全日本鍼灸学会雑誌参考。随時、参考文献・資料を指示・推薦する。	

授 業 科 目 名	実験研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 梅田雅宏、渡邊康晴、川喜田健司					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、実験に関する基本的な実験計画法(研究デザイン、研究機器、評価法など)、統計処理などについて理解する。					
授 業 の 概 要	<p>研究計画の立案、各種実験系の方法論に関する基本的な知識および統計処理の仕方について教授する。</p> <p>(川喜田健司/8回) 実験計画法について教授する。特に研究デザイン、研究機器の使用法、評価法などを教授する。また、論文の書き方(実験目的・方法・結果のまとめ方・考察)について教授する。</p> <p>(梅田・渡邊/8回) 医学分野で必要とされる統計法の使い方について教授する。特に実験データの集計法、処理法、検定法、PCの使い方などについて教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験計画法の基本について理解する。 2. 基本的な統計処理の方法について理解する。 3. 論文の書き方の基本を理解する。 4. 実験を行うに必要な基本的なルールについて理解する。 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(川喜田1)] 実験計画法のもつ意義と必要性			関連資料の読解		
	[到達目標(川喜田1)] 実験計画法の必要性を理解させる。					
	[授業概要(川喜田2)] 研究課題と評価項目			関連資料の読解		
	[到達目標(川喜田2)] 研究課題と評価項目の設定の意味を理解させる。					
	[授業概要(川喜田3)] 実験デザインについて			関連資料の読解		
	[到達目標(川喜田3)] 各種研究デザインの概要を理解させる。					
	[授業概要(川喜田4)] 鍼灸研究に用いられる研究デザイン			関連資料の読解		
	[到達目標(川喜田4)] 鍼灸研究におけるデザインの重要性を理解させる。					
	[授業概要(川喜田5)] プロトコールの書き方 I			関連資料の読解		
	[到達目標(川喜田5)] プロトコールの重要性を理解させる。					

	[授業概要(川喜田6)] 論文の検索方法 [到達目標(川喜田6)] 論文の検索方法を理解させる。	関連資料の読解
	[授業概要(川喜田7)] 論文の読み方 [到達目標(川喜田7)] 論文の構造とその内容を理解させる。	関連資料の読解
	[授業概要(川喜田8)] 論文の書き方 [到達目標(川喜田8)] 国際学術誌に受理される論文に必要なことを理解させる	関連資料の読解
	[授業概要(梅田1)] 基本統計量 (1) [到達目標(梅田1)] PCを用いて基本統計量の計算を行えるようにする。	
	[授業概要(梅田2)] 基本統計量 (2) [到達目標(梅田2)] PCを用いて基本統計量の計算を行えるようにする。	
	[授業概要(梅田3)] データ集計の基本 [到達目標(梅田3)] 簡単なデータ集計を行えるようにする。	
	[授業概要(梅田4)] 仮説検定の考え方 [到達目標(梅田4)] 仮説検定の原理を理解し、仮説をたてられるようにする。	
	[授業概要(渡邊5)] 検定 (1) [到達目標(渡邊5)] PCを用いて簡単な検定を行えるようにする。	
	[授業概要(渡邊6)] 検定 (2) [到達目標(渡邊6)] PCを用いて簡単な検定を行えるようにする。	
	[授業概要(渡邊7)] 様々な検定 [到達目標(渡邊7)] 複雑な検定について、用途などを理解する。	
	[授業概要(渡邊8)] アンケート分析 [到達目標(渡邊8)] アンケート調査の結果を分析する方法を理解する。	
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。	
参 考 文 献	臨床研究デザインー医学研究における統計入門, 折笠秀樹, 真興交易医書出版, 1995. EBM の道具箱 第2版, 斉尾武郎監訳, 中山書店, 2007 トップジャーナルにアケプトされる医学論文 高橋 弘, メディカルレビュー社, 2000	
評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。	
そ の 他 (アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。	

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学研究法					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	講義	授業年次	1年通年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	医学古典に関する研究、東洋医学の理論に関する研究、経絡経穴現象に関する研究、四診法の客観化に関する研究などに関する研究法を教授する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	具体的な研究計画を作成して報告(プレゼン)し、評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者						
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸基礎医学分野における研究課題(安全性を含む)、特にヒトを対象とした研究法について教授する。					
視 点 (ね ら い)	1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	講義	授業年次	1年通年
授 業 担 当 者	北小路博司、伊藤和憲					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床医学分野における研究課題、特にヒトを対象とした研究法について教授する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える 					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	ヘルスサイエンス鍼灸学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者						
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス分野(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3分野)におけるヒトを対象とした臨床的な研究課題に関する研究法を教授する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える 					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	より高度な東洋医学の診断法・治療法と日本で独自に発展してきた伝統医学の診断・治療法、さらに古医書や古典医学文献、東洋医学の理論などの諸問題について教授・研究する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること 					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	研究成果を報告 (プレゼン) し、評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	角谷英治、和辻 直					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸刺激および刺鍼手技・施灸手技などの作用機序に関する研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)及び鍼灸の安全性について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	樋口敏宏、北小路博司、伊藤和憲、井上基浩					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床医学分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題（研究目的、研究方法、結果、考察など）について教授・研究する。					
視 点 （ ね ら い ）	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
テキスト（配付資料）	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他（アドバイス等）						

授 業 科 目 名	ヘルスサイエンス鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者						
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3つの領域)の分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること 					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	特別研究					
単 位 数 等	単位数	8単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	角谷英治、和辻 直、樋口敏宏、北小路博司、伊藤和憲、井上基浩					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 （ ね ら い ）	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。					
その他（アドバイス等）						